

華岳山恩林寺発行



顛飽袋 733

令和5年7月号



写真：施餓鬼法要の経本 恩林寺蔵

お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう



中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

☎506-0052 岐阜県高山市下岡本町2779

✉kagakuzan@onrinji.com ☎(0577)34-1245



<https://onrinji.com/>

お施餓鬼の由来について

お釈迦様に、いつもお仕えして
あなんそんじゃ
いる阿難尊者(アーナンダ)は毎日の

生活の中でお釈迦様の説法を

一番聞くことができたので「多聞

第一」といわれておりました。

救拔焰口陀羅尼経というお経の
ぐぼつえんく だらにきよう

中に阿難尊者が遭遇した出来事

について、次のように記されてお

ります。

阿難尊者は林の中で一人、瞑想

しておりますと焰口えんくという餓鬼

が現れました。餓鬼の姿はやせ衰

えて体は枯れ細り口からは火を

噴き髪は乱れ喉は針のように
細いととても醜い姿でした。



餓鬼は阿難に向かい、「おまえは
後三日で命が尽きる。その後は
私のように餓鬼に生まれ変わる
だろう。」と告げました。

驚いた阿難は、すぐお釈迦様に
相談しました。

「阿難よ。落ち着くがよい。

その餓鬼たちを供養する作法を

授けよう。」

阿難はお釈迦様の教えの通り

食物や水を施し、出家僧たちと

共に供養をすると餓鬼たちも

救われ阿難も命拾いをする事が

できたと記されています。

お施餓鬼はこれら餓鬼たちに

救済の手を差しのべるとともに、

仏の教えや生き方を改めて考え

私たちが自分自身を反省し、徳

を積むという大切な法要です。



お釈迦様の大切な教え

- ・苦しんでいる人を見返りなく助けること
- ・知らない人にでも惜しみなく分け与える寛大な心
- ・助けること（行い、協力）を純粹に喜べる自分。

このように、多くのことが学べるのがこの法要の特徴です。
日本では平安時代頃から施餓鬼法要が営まれるようになり、さらにお盆の時期先祖供養と合わせ行われるようになりました。

高山市では東山連合寺院主催で毎年八月十九日、川せがき法要

としてお施餓鬼、

お盆の精霊送りを

合わせ、柳橋で

行われます。



また、お施餓鬼と、お盆とは本来

別のものでしたが、時代とともに

変化が見られます。

お施餓鬼法要は本来決められた

日時というものはありません。

次回はお盆の由来についてお話し

したいと考えております。



住職合掌

恩林寺お施餓鬼法要について

頭陀袋132号にて六月二十五日、

午前十一時とお知らせしました

が十時半の間違いでした。

謹んで訂正しお詫びいたします。

お施餓鬼法要

●日時 六月二十五日

●法要 十時半

●法話 十一時半



隠元禅師と黄檗宗について

(黄檗宗布教師 村瀬正光禅師)

●齋座 十二時

(お昼弁当を用意しております)



小僧さんの



【第二章 四節】寝不足生活

萬福寺では七月中旬に施餓鬼法要と盂蘭盆会が三日間、開催されました。大きな法要で準備で大忙し…そんな時に限って失敗をしてしまうのです。

私の同夏(修行仲間)が塔婆立てを壊してしまつたのです。

これだけでは終わりません。

施餓鬼壇には青い竹を飾り付けるはずが、早めに切りだして枯らしてしまいました。普段から怒らなくてはばかりの私が、先輩や和尚に

怒られている同夏を見るのは、とても新鮮でした。

しかし、私も大きな失敗を犯すことになります。法要が始まると、近くにいた和尚が耳元で

「他に木魚のバイ(叩く棒)はないか？」と訊かれました。

準備した段階からバイにビビが入っていたのです。案の定、法要後に同夏の眼の前で、しっかりと怒られてしまいました。

同夏から「字が上手い」と高評価を頂き、警策(叩く棒)や塔婆に書く字は全て任されました。

法要で読み上げた塔婆の中に

私が書いたものが多くあります。

ただ、自分が書いた警策で打たれるのは気持ちの

良いものではありません。



法要後にはコロナ禍も多少落ち着き、托鉢行をさせて頂けるようになりました。

初の放参(休日)で外出しても良い日も頂戴しました。

境内より外の新鮮な空気が心地よかつたのを覚えています。



華岳山 忍林寺

住職 古田 正彦
新堂 小森 鳳雅